





上宮校世大聖傳下

十九才十一月廿九冬夜深

沙出家ノ空有出門崇

媛天皇ニ此由シ養ゆカキテヨリ思ひせしに間百四十

向カヘ往ニ先生ノ御衣鉢道具等シサナリ皇女倉橘

ノ宮一内アリ以舍ル丸子親王シテ事ノ中シ

此聲少有中王見立ニシテ父義我ノ大臣ササメ奉テ

申板山も家ノ事努メトキ有侍リ先生帝ソ以遺初

テ承丁前已極太手ヲ守護奉テ十濟モ多ク

天武天皇ニ生ヒ帝歎メヨノ太子ハ立テワ止ミハ、志以ヒ
朕崩メ後ハ安ス由道セノ事ラ、黒毛にニ相備用補
翼トメヰサメ奉テ、努力シテ儀足ベカラズト、念比ニ由道
勅有耳ノ庄ニシテ、侍リトテヰサメ御色、今
月十五日吉日良辰ナリヤカニ以元服カト、立ラシ矣
至モ卒章ナラス思召ナシト、上モ勅宣ナシハ十月十九日
元服アリ、促ハ少々兄妹モ取ニテ左右ノ詮釋後ハ
小節入馬す大臣、テ時初モ由國ラキサセテ、太

子ノ由衣ニカリケリ、父モ是シヌモヤミテ、トヒテ、卷
曰ク先帝ハ清威ナニシテ、ム元服アリ、ト宣ヘシキ、令ニテ
ツヨギ事ヲラミエハ先帝少ニアラハ、イカニ既ニ黒毛
アワレナリトシハ、カクム坂ニムセニ付リト、コトナニム坂
キシムテナム、六月卿云宮皆被ラシリ、詩ナリ
ホ歲、ホ歲、ホ二歲。

推古天皇即位大和國小濱田宮ニ皇居アリ、時ニ
天皇太子ニヨク、我ハ女祚ナシハ太子ハヨリ政道ヲ

助ナシト食ニヤドアリシハ、開白榜文ツキニシテ
天下シワニサヘシテ天子天皇ニ登メ白ノ國主ノ花ハ並無
傳意ミメ民ヲアケムラノ賢王聖玉ト名アノ國安カラス
臣ミクル、時ハ王シキヌカタニ私ハ民ノシツヰ物ヲトニ國
ノ所也ソルニシテ、民安カラシト曰ニケレハ三十年ノ間
國ノ所也ソルニシテ、万武千秋ノ奇ソリラモ
ケルモテニヨク君ハ一方威テシテサシ致寄ニ以テニサラ
毛足ト越ヒハタハシニテ、事イ心ニカセタリト仍テ王法
大也メ圓豊饗也

廿三歲 壓四歲 壓五歲

也子先甘ノ山種那百阿國王戎國王ナハ名スア
ナニニ別ニトニ阿佐名ト申ウ山使トメ後ニ侍キリ貌
从鶴首ノ船ニリキソ不ケル太子少司馬ナキリ阿佐
名子四言九勺ノ偈ソ唱テ謡歌ニ奉ヒリ合掌敬礼
救世大悲觀音菩薩妙教流通東方日圓罕九歲
傳燈演說大悲憇敬禮菩薩妙教流通東方日圓罕九歲

三友孔生ニ至ニ 父子ミテニヨリ 先ぬラサノ所後等ノ
カララ懸念おフミ先高天乃ニ世事ヲ堅ス人也矣無
ソナニ奉キリ

廿七歲 大字ノ景表祖ノ大和國三輪明神ニシテアリ大正
五年秋奉せ元三輪山ノラモト川アリ 三輪川ト流ツ
上ヲ坐サラセニ橋ノ下ニ賤ナ女人有ラツミ面ヲアヌ
打歌テワタリケル太子是シウタムト由使ヲ以テ坐ラ
内侍アサト右ナノ申多サシ又童子彼女シネテ子

細ラ。ほフニ時女中ナリ我ハ山ノコトカニハテノ里ト云。
所ニ貧賤ノ久ス。我父母久餐シカニ三里二十ワリ
袖ヲヒラリト云(ト乞一人乞入奉け上ニ月ニモア
若菜シツシテ 我父母食ト云(リ乞方孝養シ
仰ニ思及テ太子曰我し恩子細アシハ我ト世子望シ乞
侍シレト作ラシニ役女左右ナノ而謙奉テ太子乞
曰我ニ世ト宿縁アリ 仰ニシテガタニト曰ハ松原矣
エ時太子シテ之越ナシ植ハ我國ハ神國十六三千二千ノ

コトノハミタキキセバアモヤワカラヌムシナシドテ一首ノ

詠テソソ下

三崎川ノ清ナカシミサニ弟クニヤヒララノ月ナリ
トアリケレハ拂厄事ニ

三崎川ノ清ナカシミム月ノカナト、ミニリ西へテ
カ松ニ申ケレハ太子ツノ世カレ一小事ナレ、我ウニハ言ニシノ
豹ノはシニキヤエキノ楊ラキキ白雀ヰノ子シタニト作アリテ
ぬ神田キアリキリ、之後カシハキノ室ニ坐キテ

タルニ誠ニ賤ニ藤ノ衣ソノ房ニワラシ、キテアヒトセリ
チ子はカリキラコロメシテメ御装束ノササシノ緋シドモリシニ
モキセ仰リシラクモヒルサテ六手ノ豹皮、ヨハ六手ノ
足タクヲコモノ東也、ヤキノサクシテハアカ米ノ另サルシ
アリテヒノ升ノ多トエハヤツハ根ノ白キセリ、ゲリ太子ニ
キシノナテモ毛トシニアリニスヰノゆシモナリ又
古シ吉ロヘニ元ゆ里也忽ニム桃三ツノ花ノヨシビト裏ニ
翠壁行月ノ御丸コニサシテ、既リ乃テセリテ、既リテ

依テゼリヨミノ所申ニカシワテノ所ト申奉ル
折被瓦ハタス人此人はカドテア黒ニ貪駁物獨主
帰アリ石ハ郊ニ住ナル者ナリニカ事ノ如ニシサ山
里ニシケフコト仔リナルアル時八月十九日
宋キラリラウニホテ見シハ雲ナキ秋月セイノ
圭明ナリ支帰ヨミナカヌ心ソトニテ辰タリ高
園湯丸明日二三破テ一ツ我宿ナカ一ノ夜山ニシテ
カリナル者は不無残ノ事ニ次ノ朝メ桂ノ前シ見
仰ヒニ威ニ威ヤリアハ姬也ビメ裡ノ葉ソロ敷テ
庭スケシキナシ見テキラアケニ事ナタカシトスモ時
事ナカナシ變化者ナリとも是れナツカシニ四花
事アワニ墨テ是ラサタイテ家ニカヘ年月經ナリ
廿イ長ニテ三年壬申ハ十五六ノ女ノ歳ナリ大作業
和夫春食心向シ父母是シ深事不淺門ヒ戸ニ
食シモトス山野ニ菜ソタミナシテ病ノ父母ラ浮ムト云
李子帖下高ノ我空勿ニ滿里入院在今テ疎

所謂ヨリ馬セ 諸國ニ全首ヲ下テ 来ニラヒトニト
乞ヒシハ教一子王引氣アリ 中元甲斐ノ國事卷
川勝カト生ニリル黒キメアリ 大字ヒシテ 沙良カヒリ
名ヲルは信濃國升ノ上ノ牧ノモニハ牧室ニテ
アリ 東國アサトノキヨリ 鞍馬クナリテ は難馬ニト
ノイテ ウニ黒毛ナリ は約程ナリ せ長ニテ 天ツサ
ル毛アリ アサトノキヨリ 犬カヌフシノスリヘ居室ヲ
ナトリ 直夜ニ充任ル國民之リ 国司ニ委スリトアリテ
カニニカニシテ 群ニ奉ヤト思テ 守リキシ
忠ニシテヨリ元事未だ経國司思極ム天下ニセリ 文ル而取
カ國ニノ命シノ宵ヤ独ニ今上儲君太子ノ全首ヲ
宣奏シ祖るニ會ム爰ミ約四百ノ前ニヒサヲナリテ
ニテス國司九百三長三姫ニシテ 稔王八駿リ約已カ
ヤト覺ケリ けトヨリニ成ヌト者我駒ニ駒有トテ
百濟ヨリ國リニ調伎ト云者シトキリニ付テタリニ天
川内國ニサテシカ半々丸シ付えたま天皇ニ御夢

は前ハ三千年ニニ五、ヤシ王ノ時代ニ、も観スルが、三日暮
佛耶ソ^{ナリ}日本國中ソ^ノ種見付シト所後トアリシ夫
内事ナリム^{ナリ}ム^{ナリ}アリ 調候ラ^レキサトメ水ヨリ
立付^シトテ山馬ニ^シセキフキシテ^シ唐室ニ^{アカリ}東ラ
移シテ^シト^シ駿河向富士ノ峯ニ^シ馬ノ足サワリ^シ日
峯ニ下リシテ^シセシキナリササシ^シ山岳九ニ八方に峯
多ク八葉開敷ノ形シアラ^シ心^シ隱^シ峰ノ室也アリ也
行原ニ休具^シ有^リ也^シ面^シウ^シ後^シハイケ^シ波ノ文アリ
金色ノ光明ソ^シ殊ツ良卫テ^シ而ミタム三尊化現^メノ衆
生シシ^シ及^シセシカ爲ニ^シ後間^{シテ}^{シテ}ノ檀禪ト野^{シテ}山^{シテ}トニ地獄^シ
極^シ受苦^シノ如^シ入^シ文毎日三時ニ^シは銀獄^{シテ}罪董^{シテ}能
生シシ^シ及^シセシ侍リ^シゆゆ^シせうん^シトテ^シ三^シよ^シト^シよ^シト^シ能^シ
今^シ半時^シハ見^シシ^シ御^シ仕^シれ^シキミ^シノ^シタ^シ外^シ大^シ子
水ノ上^シ字^シお^シせ^シト^シ又^シ山馬ニ^シサシ東シサシニ^シアキ^シノ
城^シオト^シラセ^シト^シ赤^シ東^シノ^シモ^シト^シ高^シキ^シモ^シト^シ九^シ
盤石アリ^シ上^シ山馬^シ打^シ召^シセ^シト^シ石ノ上^シタ^シせ^シ祭^シ

ヒツメアトフカリシテキサリヨリフミアトエホアツキ名
ヨミドテ今ニハリカホニ日本國寺シ也巡礼アリ熊野三ノ
山ナントトテル也トキアトジ巡禮ニ以内瓊アリ伊勢志摩本
三元年アト三日三夜ハ大和國ノニミリ還御すナリ
廿八年廿九キ世藏

廿三年十ノ間ハ諸國人集
丘リメニテ新羅 高麗ヤウラ 任那等、因リナシテ也謂
初タ日本回アメサレナリ

三十二歳回中人民男女老少一千人佛前尊アテ

六家受戒せニ又強ア

三十三歳 夏四月ハニミテ、十十五降、無法ヲ製
ニテ天皇ニ養ニ王法ノ規模トシ改造ヲ熟ニ従令機
式はヨリ則ナセケリ

三十四歳 甲斐ノ黒駒ニサシテ今夏ハ十月ノ間陞
地シラキアラセバテ日本亨吉高州ニ圓寂寺ノ達ニ
承社佛ちニ田シシカニ附せテ送靈死塔寺山寺也
三十五回

ヨリ申サセ近ニ宮ニ出テニ黙食シカハヤカテシケテノ
ミヤツ在考ニテナツカイは序ノ名場トメ口説書アリ
ミノ由冠赤衣ニ川袴、紫襷シ着セビ寶ハ仰スノ床ニ
座籠ノ八十種好ノヨソシヒラ現シテフ金輪聖王八宝
スシヒラカナチ鶴作ノタナラ金於ア一压妃采女衣
名トラ陣以ニヒルカス堂上宝モ下同時ニ波シサヘ寧
宮外ニサシテレヒ轉入梵鳴窟室ニアキリ寂妙
和雅ノ音都ヘ食寄特ノ異シ吸セリ勅伎ヲ乞シ
テホノキトラン慶シキニテ年ヘドテアカルシニミエシ云
事東二十余町シヘタリ、少フモトモサ池アリ、ほに中
ヨリ都ラシムスアヤシテ池ノ西シ見ニ肩争十九ニ多
宇ニカキ青色ノカエリは梵喩ソリケンシ夫ハ
只者ニ此人達摩也、或ハ中三百ニ及テハ天ヨリ三尺
ノ蓮花布達ニアリアガニテ又ナリ樹寺ノ海中
有ニ太子身ノ弟ラ石ノ壇ラウキミラムニアリたる
蓮華、宝花ニテシナ鈔ナル又法承ノ日ハ宮ノ門前ノ

山ノイタ、十三尺、多寶寺ノ初ニ、子佛ノ鳥居、
三丁勝歸於、諸國之金也、支那、唐寧、風梅
檀ノ白ラ送也何ア靈山ノ木シ來中天皇、降剎ノ
ヨリラヒラ乃爾外寺ニト

三十萬歲、太子天皇ニ養ニ給、我ニモ言々而震且
以州衡山、修行せニ時、ち叶ニ讀誦を以小字ノ法華經
テテ大徳ノ道具寺シ我曰、是、降サント四ノヨリ
蓋ニ経ナリ、傳伎ニハ、甚也子ノ大にシテ空也風也波也圓也

名大院、大倉波ヲ西ニ、海沟万里也、齊テ、以州、集
ヨリ、衡山ノ名二千八百三十里也、是、五、高也アリ。
業蓋般若解脫、臺也、花蓋是也、子乎ニ我仁せし者
般若ノ峯、因通院ノ内般若基也ト云、草房也、松本院
作之宮、ね室ト名、之室ニハ、我先生ノ、南無大師ノ御歎
名ナカリ、甚也カラニ又アノ事也アリ、ミラハカラノ木
伏ニ依テ佳室ト名我以所化守セキナ子傳燈方率
于人アリキ、運化ニ、戒制ニ誕生スル事、今、三十七晩

モウ波弔す事 年々此に云セタヨ今老僕三人

セタヨ

久坐三人ノ老僕、我在生ノトキ熟ニシテキ伍リ、我氣

海圓ニ世セメは圓ニ佛トシノ私メ而ヒラ利益ニシテ

生以後廿七年ト云時出持主寺ヲ取ニモ、其丁ニ相
待我は志ニ留メルニト仰承せり。又には五一年ト

上件ノ物サラハ余ニモコレモ、仰アリメテシ方小
野人ト祥シテ有及已ニ四月上旬ニ鎮西ガタノ津ニ
ト而ス故三人ノ老僕ノ方、は服三具ト人命を算れ學

先邊シテトツナリトニテ、即ラロ州ノハニヤケシ先
煙清サシナリテ、四ヲ取リノ後ニセ 七月七夜ニ

は州ノ津ニ着岸ス則ロ州ノ圓王ニ帶テシテ登也シテ、
三四圆王ノ伎ニお制シテ衡山一達シテ山野松柏

數十キミテ波山ノ至トニモタリ又、行くノ山野松柏

立クトニテ被ララ子苔石シダサカトメ道三般アノ

モノニエ更シテ日ノ禪圓ヨウゲンヨリ事

之ヲ越シノサルニ小御教かテ、大臣シ見テ、云我之師

今御法師ノ使來リト候テ免比丘ニ告テ三人ノ僧ニ
利言通シ難キからむ教シテササニカキノ事ト子細
書并ニは牒等ヲ送奉ル時ニ三人ノ免比丘共ニ貞
則也ニタクテカナシミテアコナホ我上師密
ノばよ言ニツナケサヤシニ摩ニケ運代ノハエ東
海國ニモニ内閣ノ子ト主テ寛室ヲ利益ニ
送致ラセスヘンセシナハ七年ヲ越後ノ若久之
大原教物經八卷一軸ノ花絵及手跡通具等ヲ
送リ至ニモ工手附千奉下シ乞乞相持ニ
ト世送言先ラムナリ送ニト作可シガ今年己未
セモニ相面レリカナシキガ十野雖ノ余生スニ今
ニタコ本仰ねテノ見九ノ御付シヨドニ三人免
比丘寺ラニヨリ皆後ス小野ト云ヒテアリシナ
度ニ復ニシテノ見九ノ御事ニ入テ般若翁ニ至リ又四
跡ヲ為身見九ニ折儀シ凡そ凡が如ニ無事モ難
ケモ多キリムナシ故特御縁石等、石室ニ納セ

十九ノ原や老虎は山野カミノニ貞松、如アワリヌ文
院降ノ傳説ナリラノミ一千余人一面ニ至テ考
羣衆花シテ森メ山野カミノニシテ取シばんはミテ、先傳
名沙シミ門前カミノトテ立モテ残ルシカニミテ
復シカスナキニテ云致、セカノ威ナラニシハ君ト
同舟ニラツリテ東キハシニ金奈イクハナミ矣
万方宣、波瀾ソ^ハタテ、ノソミシラカクノ四空ニ又
紫吹サニ氣ナカトナキナニミアリケル有核也

又臣ニ寺門シキテ江州ノ偉一翁ワニナシ江州國王ノ
主ナサニ此國三事無は翁也辱シテ大權蟹者ミ
サア又東土ノ利生大志ニ無ナキシテ代ヘリトテ謂
丈人ノトノテ小鷹大臣ト内船ニテ日本向ノ皇
室主一毛アサシナリ同年八月上旬我朝另シノ沐
善人ナド猶未スルモわき三人を以テ鬼モシ
拿シ捧^ハけ給^ハはれ候^ハはれ候^ハはれ候^ハは
一鋪肉^ハ釋尊^ハ佛舍利^ハ栏セモノ内穿

腸息取泊ノ念珠珊瑚ノ御牟遠逸羅歌ノ山裏
峯金玉ノ鱗尾犀角ノ白拂子等美シヨミラ此處
李子曰ノ收牛ニ一ノ要アリ此は夜經ハ我持隨ニ此
弊事子ノ傳ノ也後之ナツト金シトサテト神體ニシテアリ
ニ諸人ニ平テト経ハ我ナチモ睡眠皆トモ傳
持持ナリモ故ハは傳常ニ睡眠ニシキリシテ史ノ寺内
ミナメ經シ法用せことニトコ大ニ經ソニ字ヲ梵ナリ
四ノ卷五百品ノ長行ト偈頌上ニ二示アリハ行ニテ用
因後見ニカモ若ズヘ長行偈頌ニニモ焼矣入大
右ノ近習不重議魚ラキスハ丘ヘ拂除事云何大法
圓立ニテ中カテ火ミヘテ之を以テ多歎入テ七世
夜ア往テ我真エノけむ既奉ソノ後は周ノ事
ミナテ寺シテス守護ニ奉セシトテ今は隆音ノ
月星ニ八角ノ因堂寺歎ニテ自ナヒラフトトナセ有
古履入室ニナテ七月ヲ往テ内ヨリ出た法幢ニカホ
有之明ニ半ニナヤナリ一八卷一軸ノ法經忽

卷之二

三
尋七歲　去年に州、因王ヨリ勅せし朝使十八人ヲ遣せしを小野大臣と因江州、海ナリ是私ノ遣使を平而得トシテノ充監寺ノ行、一至多
里。今五日向於ノトキニ有ヨリ、因朝は事ニ成
程ナリ衡山ニ至テ、ロクニ一人ニ遇ニ侍リ、監大臣ヲ見
ゆシ流ニ鶴歎ニナリ、トキニ大大臣因ノ梓古事
而往々今二人ト同侍ヒ、差モ其事ナリ、左三
箇句は朱行ナソニヘハ傳聲セリ我ら人情ナリ
二度面恥ラトヨル事ナシヨリ、收ナリ、唯ニア不覺アリ。
是モ竹アリシカレアヤアテテ、セイヨウノ五十九ノ第
及シワクをより仰御ルニ去年八月、下旬、今拿ニ書就
奉、又エサシ業焉ニリテ、冥天玉玉ノ宇ヲ教アテ
玉臺白蓋ヲオ、井唐空シ尤ニ、未だリ石室、今テ
塗壁也、タマニ墨跡ナラセナキトヲア叶ニ大昇

ヨシニ國歎キナリトハ食已三日畢一飯乞ニ三人食盡

官乞ナカリシニミテ門前ニ五本ナリミリナルトナム

袖ツリキテテ云ク我今モ高麗ツマナド人余ニモ車馬

因ニムニシテ大モノウヤウラト丸ニト秋辰ハ金盃
ナリドテ門あノ石上ニセリ毬星シ人毛ラク牛車ニ
向ニ端座乞事ニテモカナリテトテ御殿今ナメ也

トナシタニセニ後ナニ

三十八歲 カツラ野ノ御行は時慶廬澤寺

伽藍ヲ立テル

三十九歲 百濟ヨリ僉人三十六人ヲ、名ワクサシ基

ノ川勝舍弟時勝カ子孫ニ此齋ヲ習せん月

奉國、率平山ノ一塔ル

四十歲 推古天皇大和國鬼田野ニキサセテナル也

元媛生死ナリヘテはウヤリシテシムヨミ申合

ヨリ、國王ノ侍狩モヨリ下、立テル

半十二歲百海ヨリ因ニ巧道寺ヲ真シテ阿爾
四儀長里ニ修行ナセテ 我門後シツキコニ
甚シ中五年夜巧ラソヘ給ミ達ノアリ既ハ中六
四方三丈盤石ヲカリキ内八千地也ニ三井干百リシ
ハ大内ニラリテニサキシ四方ノ山ニツル事モ尋
孔ノ時ノ行道ノ為ニ太々太子ノ内面強ジ取代ニ
ね候ニカラ先表示ヒトエリ太子大和國モカクノ
宮櫻御モチニ付ケル山カタシガノ山家ミテカサノ室駄
アラニシテアキヨジアカビテノ先ニスムキナシ太子アヤ
ニ拂拂既凡ニ通キトリニ飢餓疲瘦ノ乞人平固
セリゾノカクキナラ見ニ面客シヨウ長大ニシニ眼ニ吳光
アリノ門ノカクキナリ太子乞シ以次ニテ危
角ノ脚四足ニ及ヌ首ノテラ即
上手千ルヤ行思山ノ飯ニラテヨモトト呂名モ
ト作ニシテハ既ス人セキニ云
サウルヤヨリノ川ノ左ニテ残シ未ミナハ足矣

其の後事中を懐はひし人書テナシナリ又太古
少滅ニキヒテトヨリシハ弃シタリ千赤衣シ幸テん
塔瓦人ノ上ニカミテニトキテカナラニテ累佛ナリ候キ
次ノ自沸はラツカラサシケルニ太子ノヌキセモ経山
奈木アリアリテ死人ハ有リキ此ニラツノカタニ
ソノセリ内はモラヌアタシミタテアツハ太子モソシ
山段瓦ニ懸注ニテ歎也シ佑モシ久人トハ津摩
太子衡山ニ修行ニシヒ時而方ヨリ代東メ禪師ヲ勅
奉テ東古ノ底マラ海ムニシテ甲ヨシ御幼アリテ
建广上仰ハ太子誕生ト平成二日本未ニ太子聲
自ハアシナリト交又ノサヰニシテ元ニ腰躰疊
ノ時、文那^{ヤハ}トナテ梵^モ真^モニシアリ^モ釋揚^モ寺^モ
助^モテ然ニ太子沙世モニ歲中春ヨリはケル^モ字^モ
四^モ年^モ七^モ歳^モニ聞^モ法^モ傳^モ文^モ小^モ權^モ字^モ
は半^モ歲^モ中^モ感^モ已^モ降^モ尼^モ而^モ身^モノ左
姿^モが^モ傳^モ文字^モ無根未^モ經^モは

七月七日持三千里一サナタ林花落^{ミセラ}口是
ソニス上^シ教歌人持根ニラ^ニ飢^ヒ飢^ヒ夜應^メ

事半^ハ不^ハ精^ハ尽^ハ乎^ハ以^ハ殊^ハ事^ハ以^ハ事^ハ三原^ハ

義^シ空^ク自^リノ^ニ是^ハ口傳^シ妙^ハ法^ニ

四^ハ歲^ハ何^ハ内^ハ回^ハカ^ハ心^ハ扇^ハ立^ハニ^ニ送^ハ切^ハリ

方^ハ二^ハ時^ハ太子^ハ廟^ハ淨^ハ圓^ハ入^ハニ^ニ西方^ハノ^ニ三^ハ石^ハ偶^ハリ

之^ハ少^ハ其^ハ文^ニ云

大^ニ悲^ニ本^ニ捨^ニ願^ニ

愍^ニ衆^ニ生^ニ如^ニ一^ニ子^ニ

是^ハ故^ハ方^ハ便^ハ往^ハ西^ニ方^ニ

誕^ニ生^ニ行^ニ州^ニ興^ニ法^ニ

我^ハ身^ハ救^ハ世^ハ觀^ハ世^ハ音^ニ

宣^ニ惠^ニ契^ニ大^ニ勢^ニ至^ニ

生育^ニ我^ハ身^ハ大^ニ悲^ニ因^ニ

西方^ニ教^ニ主^ニ林^ニ院^ニ尊^ニ

真^ニ小^ニ真^ニ實^ニ牛^ニ駛^ニ

一^ニ軀^ニ現^ニ三^ニ同^ニ一^ニ軀^ニ

行^ニ域^ニ化^ニ緣^ニ已^ニ盡^ニ

還^ニ歸^ニ西方^ニ我^ハ淨^ニ土^ニ

為^ニ度^ニ末^ニ世^ニ諸^ニ衆^ニ生^ニ

父^ニ母^ニ所^ニ生^ニ血^ニ肉^ニ身^ニ

遺^ニ留^ニ勝^ニ地^ニ崇^ニ廟^ニ法^ニ

三^ニ骨^ニ一^ニ廟^ニ三^ニ萬^ニ佛^ニ

聞^ニ去^ニ七^ニ佛^ニ法^ニ輪^ニ所^ニ

大^ニ悲^ニ相^ニ應^ニ切^ニ德^ニ化^ニ

一度參詣離更起
史官代筆極榮卑

ササニシキノカミ
ササニシキノカミ

悲母、向人乞種矣。皇女也。庶以廿年三月秋亨之。

寺町の風雲日又天子不異也。乃木川一郎

アテニ宋ヨリ雪シサシテ廬室シノ形ノモ形ナ
刀ノ如テアカキ急ナリ 郡捨天ツヒニカニ廬室ツカヤヌ
時ニ廬舎ヨリ近ル 天文博士テイモンボクサ道今トキニノ太子重松

は多矣。由其上之天變也。大凶者。聖人吉口之ト。

トヨ瑞シ現人太子今ニあ年ノ中ニハけ回ノムツギ
テテ山原孫八五十六年ノ在ニ皆ウモサセズト云

廿年太子三十人，伶人少。二十太子，宮三十六，以望

ノ貞金ヲアリシコナニハ、テ三月廿日正上下川
丸せシテ承テ、キヤ七道宮ニ至、太子ヲ拜奉

リ星ニ生乃ノ御形シ見サセテア衆生ニ弘ラ

鐵器上ノ所方便也

タニサラハ五房ノ木バトストモイキテ行ム院ノ岡
サニ二月廿二日辰ト向叶ニ山入滅アリヒハ亭中
勅教ナシアリ一天悲泣ノ坂又ナカニキ山門矣
ナニミノ郷ナシナニ草木樹林ニヒテ色ヲフクミ
ナリニアシカクノまゆニ雙林夙モシラツセリ
サニ五里ノ山内凌三人色スリ革下滿ナミトリ
黒斐黒羽ヲハ調使凡ニソニ手ケ示ニ行黒羽ウ糸
ナリニカナミノ都ナシアリニイハエナリミ時鳥
毛種ノ神対ヲ現ルモソニ遙ニシタリヌ寫
寫ノ觀音ナリトニ、調使凡ハも家ニテ法蘭ノ前ニ
七日念佛^{ナシ}_セ三月廿九日ニツイニラハリ又
太子佛入滅六年ニトノ子入麻大に生得トア
ヰセイシナキナリサワクアテニナは仁只人罪入門
位相アリトミナリ冊語シ信ニテ位ソノソヨ
丸太子ノ王子^{タチ}凶ノ弊サハ王位ニソナリ後大に已
ナリモ生は王子達アウミナキナリナリトマト里テ

太子ノ皇子ナチ人濟殊ハ故モサム人ノ皇子ヲ言
入道リテ燒呑サントシナリテナク矣先大元皇
弟ナキソシテ鷹骨ヲミタニナラニシキテサム
ノ皇子シテナラニヒナテ夜半ナニサコニ山
三トカヒサセニナリサルカノ太白ハヌシ焼キナ
アトラミレハ白骨ハヰノ中ニアリカ色ニテ山中ニカ昔
嘗テゆテ又申サセ給ナムハ我等モソノ罪業也
今世莫々ラ翁ヒリ是故國威黒ソコトハリナナラ

下ニ此人内威寺カ父ノ太子ノ御達三ノ法隆寺ニ
モリテは町三丁父ノ寺シトフニサ奉キリサカニ成
ニトテサム人相共ニ法隆寺入セ又五堂ノ寶塔
ニホリ名ニ香爐ヲルテ燒多ニ西方ニ向テ唱テ
曰ク承ハ我父ノ太子上官王陀生ニ歎人西方極樂世界
往キリ秀ノナフリ業事ト成リ忽ニサムノ善惡十
成テ西方シ精テ死絶ノ

舍利禮

一 忽頃禮

本地法身

万德圓滿

法界塔邊

釋迦如來

心身舍利

我等禮敬

以我現身

入我我入

佛加持故

發菩提心

為佛神力

從菩薩行

同入圓寂

利益衆生

平等大智 今將頃禮



四十九歲

甲子年

或之太年也感而作

序

菜女シテハ文近習コラフ

ノ久に以下ナキヤニミト

トナラス故ニ十、ヒサシアドニ又種生ソウジ

タヌナラス故ニ十、ヒサシアドニ又種生ソウジ

ノ久我世ヲ吉事スニカヨリセトニトモ

五アト
リ悲泣ニ余ツル少工耳ノ座ニゆアヘ終身サリ

トナリスハ文種セイセリ今三十年ヲ度ニカ十二

入滅スヘイカエテ誰モ此ノミキリニシ

アサノ者ヲあつり東北ニモ世ノ衆モコトニ既

巨念鳥碧シト、メスハ仕生ナワリナヘシトニ

辛十二歲二月廿一日ノ夜中太子せリツミノ辰ト

アシカリニ玄ニ大子申サセハ極ヨヨヒハ既ト其入

減スニ時分到来セリト作ラニシハ灰中サセハ既

我ニ乳母トミノ井ノ水ヲメスニト申サセハニ大子

拂昇

十九九島升水ナニカセハ即也ニトノイタラ第

丘佛邊事

110X
270
1